

ぶどう膜炎後ろ向き疫学調査

京都府立医科大学眼科では、ぶどう膜炎の患者さんを対象に疫学調査に関する臨床研究を実施しております。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

ぶどう膜炎の原因疾患構成は人種や世界の地域によって大きく異なっていることが判っています。ですから、世界の他の国から報告されたものは日本のぶどう膜炎の原因がどのようなものであるかということの参考にはなりません。そこで、今回日本の眼炎症学会が中心となってわが国におけるぶどう膜炎の原因疾患について調査することとなりました。日本全国のぶどう膜炎診療を行っている施設がこの調査に参加する予定です。この調査に京都府立医科大学・眼科学教室も参加し、日本のぶどう膜炎の原因疾患構成解明を行ないたいと考えています。

研究の方法

・対象となる方について

2016年4月1日から2017年3月31日までの間に、ぶどう膜炎の診断で京都府立医科大学眼科を初診で受診された方

・研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から2022年3月31日

・方法

当院眼科においてぶどう膜炎の治療を受けられた方で、診療録（カルテ）より以下の情報を取得します。年齢、性別、ぶどう膜炎の原因疾患名、罹患部位を診療記録より収集します。

・研究に用いる試料・情報について

情報：年齢、性別、ぶどう膜炎の原因疾患名、罹患部位

・外部への試料・情報の提供

九州大学眼科へ調査票を郵送で送付し解析を行う予定です。提供の際、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。

・個人情報の取り扱いについて

患者さんのカルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究代表者（京都府立医科大学 眼科学教室 永田 健児）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

・試料・情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報は原則としてこの研究のために使用し結果を発表したあとは、京都府立医科大学眼科において病院助教・永田健児の下、10年間保存させていただいた後、研究用の番号等を削除し、廃棄します。

保存した情報を用いて将来新たな研究を行う際の貴重な試料や情報として、前述の保管期間を超えて保管し、新たな研究を行う際の貴重な試料・情報として利用させていただきたいと思います。新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

研究組織

研究責任者

京都府立医科大学 眼科学教室 外園 千恵

研究代表（統括）者

京都府立医科大学 眼科学教室 永田 健児

共同研究機関

九州大学 眼科 園田 康平

お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2022年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

せん。

京都府立医科大学眼科

職・氏名 病院助教・永田健児

電話 : 075-251-5578 (平日 9~17 時)